藻類 Jpn. J. Phycol. (Sôrui) 46:42, March 10, 1998

石丸八寿子：藻類談話会に参加して

藻類談話会が，1997年11月8日（土）午後，学園祭の喧騒の中，神戸大学滝川記念学術交流会館にて開催されました。この談話会は，藻類を材料として研究を行っている関西および中国，四国地方の方々の集まりであった関西藻類談話会が前身で，かなり古くから続いております。一時期中断されておりましたが，3年前，8年ぶりに再開され，1996年度以降，会名から関西の文字が取り除かれました。関西地区以外からの参加者が増えた為のようです。今回も，茨城，高知，神奈川，愛知，徳島からの参加者がいらっしゃいました。講演会には約50名，懇親会には約30名が出席されました。発表者（敬称略）と講演題目は以下のとおりでした。

楠見武徳（徳島大・薬）：大型藻類の生理を司る化学物質

大浜　武（生命誌研究館）：藻類のミトコンドリア遺伝暗号から見た系統関係

幡野恭子（京都大・総合人間）：アミミドロ遊走子の網状群体形成

中原紘之（京都大・農）・川井浩史（神戸大・内海域）：ナホトカ号重油流出事故による海藻類への影響，その後

楠見先生の講演は，アコヤガイの養殖で天敵となる害虫を寄せ付けない為に，大型藻類の分泌する物質が有効であること，また，赤潮の発生を押さえる為に有効な脂肪酸についてのお話しでした。共にまだ実験段階だということでしたが，実用性のある研究で，たいへん興味深く聞かせていただきました。大浜先生は，藻類の系統関係がミトコンドリアの遺伝暗号の違いによってわかる場合があること，さらに，現在までのミトコンドリア遺伝子COXIの解析をもとに，生物全体にわたるミトコンドリア遺伝暗号変異の方向性についてお話しされました。この研究には，私もかつて携わっており，新たなデータが加わっていることをうれしく感じました。幡野先生は，面白い生活環をもつ緑藻アミミドロの遊走子が網状群体を形成する時の形態学的な観察結果と，その時期に発現する蛋白質のモノクローナル抗体の作製に取り組んでおられるというお話しでした。私は先生の後輩なので，学生時代のデータなどは懐かしさを感じながら見させていただきました。中原先生と川井先生には，平成9年度の重大事件である日本海でのナホトカ号重油流出事故により，海岸の海藻類がどのような影響を受け，現在までにどの程度回復してきたかを，現地のスライドを交えて語っていただきました。自然を一瞬にして破壊してしまう事故の怖さと自然の根強い生命力について考えさせられました。4人の先生方のお話しをお伺いして，一口に藻類の研究といっても多岐にわたっていることを改めて知りました。その一つ一つがそれぞれに興味深く，藻類がいかに不思議で，それらを研究することの重要さと面白さを再認識いたしました。

懇親会場にて。

講演の後は，1階の食堂ホールにて懇親会が行なわれました（写真）。残念ながら全員の出席は臨めませんでしたが，私には，懐かしい先生方やこのような機会がないとお話しできない先生方と同席でき，有意義な時間が過ごせました。若手の研究者や学生がもっと気軽に参加し，創立当初からの先生方や現在活躍中の先生方と活発に意見を交わすことのできる場になっていくことを期待します。次回は，中原先生のお世話で京都大学にて開催されます。今回と同様，興味深いお話しをお伺いできることを楽しみにしております。

（444-8585 岡崎市明大寺町字西郷中38 基生研 細胞生物）